

「シャインマスカット」の収穫果の果皮黄化対策

福島県農業総合センター果樹研究所

1 部門名

04-04-29

2 担当者

湯田美菜子・額田光彦・阿部和博・斎藤祐一・佐藤守

3 要旨

本県では、新品種の「シャインマスカット」が植栽面積および出荷量ともに年々増加している。本品種は、収穫時の果皮色の黄化し、商品価値が低下することが問題となっている。そこで2種類のカラー果実袋を使用し、果皮色の比較を行った。

(1)7月9日に2種類のグレープ20(緑色)、グレープカラーD20(青色)、(いずれも小林製袋社)を被袋し、慣行の果実袋グレープD20(白色)と着色程度を比較した。8月30日、9月2日、9月9日、9月24日に収穫し、果実品質を調査した。果皮色は、山梨県で作成したブドウ「シャインマスカット」専用カラーチャートを使用し評価した。

(2)2種類の果実袋がシャインマスカットの果皮色に及ぼす影響を表1に示した。8月30日収穫分においては、処理間差はなかった。9月2日収穫分においては、青色袋区は他の2区と比較し、着色程度は5%水準で有意に低かった。9月9日は、白色袋区は他の2区と比較し1%水準で有意に高く、果皮が黄化していた。9月24日は、白色袋区がもっとも高く、次に緑色袋区の順に有意に差があった。白色袋区は他の試験区に比べ、黄化しやすかった。青色袋区は緑色袋区と比較し、同等またはそれ以上に果皮の黄化の抑制効果が認められた。

以上のことからシャインマスカットにカラー果実袋(青色または緑色)をかけることにより、白色袋より果皮の黄化しないことがわかった。青色袋区は緑色袋区と比較し、同等またはそれ以上に果皮を黄化させない効果があることがわかった。また酒石酸の低下は白色袋が青色と緑色袋より早いことがわかった。

表1 果実袋の違いがシャインマスカットの果皮色に及ぼす影響

処理区	8月30日	9月2日	9月9日	9月24日
白色袋区	2.2	2.5 b	2.5 b	2.7 c
緑色袋区	2.0	2.5 b	2.1 a	2.3 b
青色袋区	2.0	2.3 a	2.2 a	2.0 a
有意性	n.s	*	**	**

多重比較はTukey法により異符号間で5%水準で有意性あり
分散分析**は1%、*は5%の危険率で有意差あり、nsは有意差なし。
果皮色:「シャインマスカット」専用のカラーチャートにより、5段階で評価。
1(濃緑色)-5(黄色)。

表2 果実袋の違いがシャインマスカットの果房および品質に及ぼす影響

区	1房重 (g)	着粒数 個	1粒重 (g)	さび果 発生率(%)	糖度 (°Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
白色袋区	466.4	35.3	12.8	10.1	18.7	0.27 a	70.4 b
緑色袋区	472.7	46.7	9.9	6.5	18.6	0.31 b	59.6 a
青色袋区	499.6	44.0	11.1	9.9	18.1	0.31 b	57.9 a
有意性	ns	ns	ns	ns	ns	*	*

多重比較はTukey法により異符号間で5%水準で有意性あり
分散分析**は1%、*は5%の危険率で有意差あり、nsは有意差なし。
収穫日は9月24日。N=5

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成25年度

(2) 研究課題名 本県オリジナル品種・新品種・一般品種の生育及び栽培特性調査

(3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料